

こんにちは！

朝晩と日中の気温差がありますが体調を崩されていませんか？

有限会社美栗陸送 代表取締役 栗本佳孝

10月10日から14日まで香港に行ってきました。

中国はまだ景気がよく、人々に元気がある事が今の日本との大きな違いだと感じました。観光旅行に行ってきた訳ではないので、みやげ話もありませんが、とにかく刺激的な5日間になりました。

香港に行った目的は、日本には気付かない事を、違った視点から見つめなおして、ビジネスの視野を広げることです。

朝は6時に起床して7時から30分プールで泳ぎ、朝食後9時から21時まで休憩時間はありますが行き帰りの日を除いて3日間、香港にある知り合いのオフィスでマーケティングの勉強をさせていただきました。

英語も出来ない私にとって、海外はかなり緊張します。同じアジア人なのでついつい日本語で話しかけてしまいましたが、中国の人はかなりフレンドリーに接してくれました。

今後はますますアジアの一員として、中国、タイ、インド、韓国、マレーシア、シンガポールの方々との交流をしていかなければならないと実感して帰国しました。



メディア情報

9月26日物流 Weekly

HP トップページ作成サービスが取上げられました。注：ホームページの作成を始めたわけではありません。

ホームページを新規作成する場合や更新をされる時に、ホームページを見た人が、お客さんになるような仕掛けを、盛り込んだトップページのデザインを提供するサービスです。



(10月20日ふれあい会館にて)

10月20日

岐阜県自動車解体部品協同組合の定期研修会で講師を務めさせていただきました。

場 所：ふれあい会館

講演題目：インターネットを活用したマーケティングについて

私が開催している有料のセミナーと違い、研修会とか勉強会の講師の場合、真剣に聞く態度でない参加者がたまにみえますが、今回の研修会に参加された方は皆さん真剣な表情で、私の話を聞いていただき、不明点の質問も積極的にされ、とても良い講演になりました。ありがとうございました。

新メンバー紹介



根本大輔(ねもとだいすけ)(33歳)
(9月21日入社)

自己PR

趣味はテニスです。

子供が2人います。子供にテニスを教えようか、検討中です。

お客様の立場で考え行動する 有限会社美栗陸送

岐阜県岐阜市細畑1-8-7

TEL : 058-213-6445

FAX : 058-213-6446

夜間走行について

11月にもなると日が暮れる時間も早くなり夜明けもだいぶ遅くなってきます。それにより夏季に比べ暗い中の走行が多くなってきます。

夜間はスピードを出しがちになるうえ、危険の発見も遅れがちになり昼間に比べて事故が発生しやすくなっています。そこで今回は夜間の危険性と安全走行のポイントを纏めてみました。



◆ 夜間は昼間より約三倍死亡事故が発生しやすい。

H21年の統計を見ると、たとえば人身事故は昼間543,746件、夜間は192,942件と昼間が圧倒的に多いのですが死亡事故だけをみると昼間が2,448件、夜間は2,325件となりあまり大差は見られないようにみえますが、人身事故に対する死亡事故の割合は10,000件当たり昼間約45件、夜間約120.5件と約3倍になり夜間は圧倒的に死亡事故につながりやすいことを示しています。

◆ 夜間に死亡事故が起こりやすいのは？

速度を出してしまう

夜間は交通量も少なく走行速度を実際よりも遅く感じることもあり、速度が出がちになります。もし衝突したときの衝撃力は速度の二乗に比例するので(速度2倍で衝撃力4倍)速度が出れば出るほど重大事故につながっていくのです。

速度、距離の判断が狂う

夜間は自分のヘッドライト、対向車のヘッドライト等でしか判断できません。しかし昼間と違い回りがあまり見えませんので比較対象がどうしても少なくなり判断が鈍ります。そのため追い越し時や右折時、前方障害物を避ける際に速度や距離の判断を誤りやすく、正面衝突や障害物に衝突するなど重大事故につながってしまいます。

危険の発見が遅れる。

夜間は周囲が暗く基本的に自車のヘッドライトと街灯などを頼ることになり歩行者や無灯火の自転車などの発見が遅れます。中でも黒っぽい地味な服装だと発見が遅れやすく直前になって気づきあわてて回避行動をしても間に合わないことが少なくありません。

◆ 夜間走行のポイント

状況に応じヘッドライトの切り替えを多用する。

基本的には夜間は自車のヘッドライトだけが頼りです。ヘッドライトの照射範囲はハイビームで約100m、ロービームで約40mです。時速60キロ走行だと危険を発見してから急停車までに約44m必要ですので間に合いません。夜間走行時には状況に応じたヘッドライトの使い分けが必要です。

対向車のヘッドライトに惑わされない。

対向車のヘッドライトを直接目に受けるとまぶしさを何も見えない状態になり、眩惑という状態になります。こうなると視力回復までに3~10秒かかるといわれ、大変危険な状態になります。対向車のライトがまぶしく感じたら視線をずらし眩惑されるのを防ぎましょう。

また自車と対向車のヘッドライトの中に入り込んでしまい双方から見えなくなる状況を蒸発現象といい、本当に一瞬見えなくなります。センターライン付近で一瞬でも動く影が見えたらそれは歩行者か何かの危険なのかもしれません。

さらには、まだ遠いだろうと安易な考えで追い越しや右折も危険です。速度がきちんと掴めない中での行動は危険です。ゆっくり無理をせず安全に行動するのが一番です。

(犬塚芳彰)